

## 1. 研究の背景・目的

京都市は「京都市基本計画」において、「京のアジェンダ21フォーラム」を核とした、『環境を大切に旅(エコ・ツーリズム\*<sup>1</sup>)』の視点からエコ・ツーリズムワーキンググループを発足し、新しい観光都市づくりを推進するため活動している。本研究は京都市を事例に、都市型エコ・ツーリズム\*<sup>2</sup>の振興方策を解明するため、以下の点を明らかにすることを目的とした。

■ 京都市におけるエコ・ツーリズム及びエコ・ツアーの現状を明らかにする。

■ 2002年4月に開設される「京都市環境保全活動センター」(愛称:京エコロジーセンター)において、エコ・ツアーに関する情報をどのようにして市民に公開し、活用するのか、提案する。

■ エコ・ツーリズムを推進するために、各主体がどのようなネットワークを形成し、エコ・ツアーの取組を展開すべき方向を明確にする。

## 2. 研究の手法

### <アンケート>

京都市全域で活動する<観光><環境><自然>に関わる団体に対し、エコ・ツアーに関するアンケートを2001年9月1日～11月31日実施した。

表1. アンケート回収表

|     | 進行状況 |     |     |    | 回収率(%) |     |     |      |
|-----|------|-----|-----|----|--------|-----|-----|------|
|     | 会員   | 会員外 | 総数  | 回収 | 会員     | 会員外 | 総数  | 回収   |
| 昨年度 | 164  | 73  | 237 | 36 | 19     | 19  | 100 | 11.6 |
| 今年度 | 164  | 73  | 237 | 36 | 27     | 63  | 90  | 42.9 |

\* 京のアジェンダ21フォーラム会員

表2. 回収団体の形態

|      |    |      |    |
|------|----|------|----|
| 環境保全 | 13 | 企業   | 14 |
| 自然活動 | 10 | 生活文化 | 7  |
| 散策   | 5  | 国際交流 | 3  |
| 福祉   | 3  | 自転車  | 1  |
| 行政   | 1  | その他  | 5  |

### <GIS>

アンケートで集計したエコ・ツアー実施場所と自然100選の場所をプロットし、エコ・ツアーデータに半径2kmのバッファー(散策可能時間/日)行い、関連性について考察した

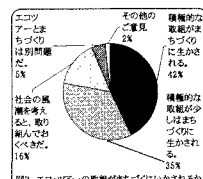
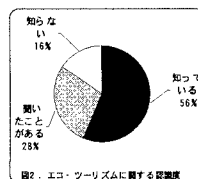
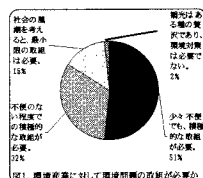
### <京都エコ・ツーリズム実践交流会>

都市型エコ・ツーリズムを推進するべき方向を明確にするため「第1回京都エコ・ツーリズム実践交流会」を2002年2月15日に開催した。アンケート集計の報告、参加団体の活動報告、今後の交流会の開催や、ネットワーク化について討論した。

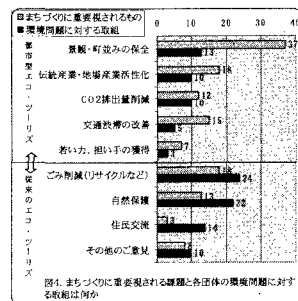
## 3. エコ・ツーリズムの現状と課題

「観光産業の分野に、環境問題への対策が必要だ。」(図1.)という肯定的な回答は93%、「エコ・ツーリズム」を知っている「聞いたことがある。」(図2.)と答えたのは84%、「エコ・ツーリズムの取組がまちづくりに生かされる。」(図3.)という肯定

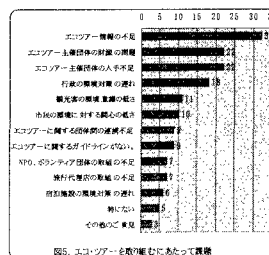
的な回答は93%といずれも高い値を示していることが分かった。以上より団体のほとんどでエコ・ツーリズムが意識され、認識されていることがわかった。



まちづくりの課題には「景観・町並み保全の問題が重要である」と37団体(全体の59%)と過半数が回答した。一方、各団体における環境問題に対する取組に「ゴミ削減(リサイクルなど)に取り組む」と24団体(全体の38%)が一番多く回答している。(図4.)まちづくりに重要視された課題が、各団体における環境問題の取組においてそれぞれ増減し、「従来、認識されているエコ・ツーリズムの取組」と「今後、都市型エコ・ツーリズムに必要な課題」に分けられる傾向がみえた。



次に「現在のエコ・ツアー活動に関する問題」では「エコ・ツアー情報の不足」が32団体(全体の51%)が回答しており、次いで「各団体の財源」と「人手不足」が22件(全体の35%)となっている。各団体の活動における継続性が困難を要していると考えられた。



「エコ・ツアープログラム集の内外における広報活動」と「実践交流会開催によるネットワーク形成」に対する回答をクロス集計で表した。(表3.4.)これによると、現在エコ・ツアープログラムを持つ団体は、積極的に記載希望や出席希望しているとわかり、「プログラムは有る記載希望しない」団体は、当フォーラムの主旨が伝わってなかった。一方、「プロ

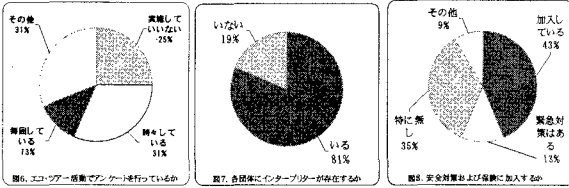
表3. プログラム記載に関して

| プログラム | 記載希望 | 記載希望しない | 不明 | 合計 |
|-------|------|---------|----|----|
| 有り    | 32   | 1       | 5  | 38 |
| 無し    | 8    | 10      | 7  | 25 |

表4. 交流会出席に関して

| プログラム | 出席希望 | 出席希望しない | 不明 | 合計 |
|-------|------|---------|----|----|
| 有り    | 18   | 17      | 2  | 37 |
| 無し    | 1    | 8       | 16 | 25 |

グラムは無いが記載希望する、出席する」団体は、エコ・ツーリズムの認識も高く、積極的な活動を行いたいという団体であった。



上記図6.7.8.はエコ・ツアープログラムを持つ団体からの集計結果である。図6.「毎回実施している。」は13%にしかなく、積極的な取組としてとらえにくい。また図7.「インタープリター\*<sup>3</sup>が存在する」団体は81%と多い。エコ・ツアーにはインタープリターが必要不可欠な存在である。図8.「保険の加入」についても43%と図6.と同様な考えである。以上の結果、エコ・ツーリズム推進の現状で以下のことがいえる。

- ① 各団体はエコ・ツーリズムを意識し、認識している。(図1.2.3.)
- ② 都市型エコ・ツーリズムと従来のエコ・ツーリズムのまちづくりの課題に分けることができる。(図4.)
- ③ エコ・ツアーの問題に「エコ・ツアーに関する情報の不足」「各団体の経済的問題、人的問題」があがり、活動の継続性に不安がある。(図5.)
- ④ 当フォーラムの取組に対し、積極的に取り組む団体とそうでない団体に分けられる傾向がある。(表3.4.)
- ⑤ エコ・ツアー取り組む水準がないため、各自の判断で行われている事が多い。(図6.7.8.)

#### 4. 環境資源とエコ・ツーリズムの実施

エコ・ツアーの実施場所から半径2km(一日4時間10km=平坦地で抵抗なく徒歩ができる距離<sup>\*4)</sup>)のバッファを行った結果、下記の図9、表5のような結果がでた。

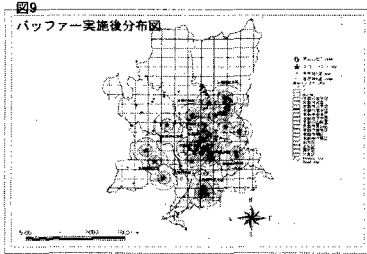


表5. 地区別エコ・ツアーおよび自然100選分布表

| 地区 | エコ・ツアー実施場所 | 自然100選 |
|----|------------|--------|
| 1  | 1,271      | 2      |
| 2  | 1,152      | 4      |
| 3  | 895        | 11     |
| 4  | 13,084     | 12     |
| 5  | 1,880      | 7      |
| 6  | 4,731      | 2      |
| 7  | 10,517     | 13     |
| 8  | 8,221      | 4      |
| 9  | 2,402      | 15     |
| 10 | 2,631      | 3      |
| 11 | 4,675      | 12     |
| 12 |            | 10     |

22地区はエコ・ツアーが存在  
26地区は場所不確定

①エコ・ツアーは京都市の都心部(特に中京・下京区)および左京区、山麓部に(右京・南区)多く存在する。

②二つの重なりを見たとき、自然100選はエコ・ツアーとあまり一致せず、エコ・ツアー実施場所より都心部では2km以内、山麓部では2k

m外に位置している傾向にある。

#### 5. ネットワーク化によるエコ・ツーリズムの推進

第1回実践交流会で確認されたことは以下の通りである。

- ① 実践交流会を今後も開催し、お互いの情報を交換し、ネットワークを形成していくことを確認した
- ② 2002年「エコ・ツーリズム年」に、エコ・ツアー実践プロジェクト(当フォーラムパイロット事業)を連携して行う事を確認した。
- ③ エコ・ツーリズム推進ネットワークは地域住民・観光業者・観光客・研究者・行政(環境局・産業観光局)が対等にたったパートナーシップをとることが必要である事を確認した。

#### 6. 京都市における都市型エコ・ツーリズムの提案

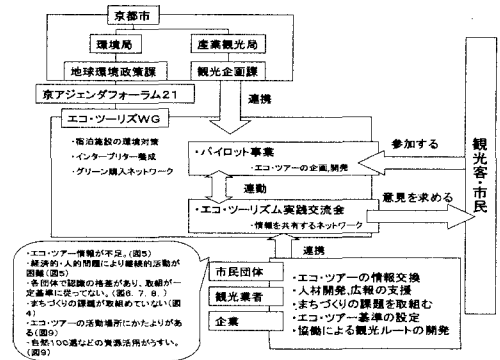


図10. 京都市における都市型エコ・ツーリズムの提案

- ① GIS で明らかにされるエコ・ツアーの現状を把握し、実施されてない地域の観光ルート開発や、自然100選と都市型のエコ・ツアーを含めたツアー創出し、パイロット事業で実施する。
- ② お互いの持つ資源(エコ・ツアープログラムや環境問題に対する取組、保険加入の方法や企画力)を相互に提供しあい、経済的・人材的な問題を補完しあい、ネットワークを形成する。
- ③ 京都エコ・ツアーの基準を設ける。
- ④ まちづくりの課題を都市型エコ・ツーリズム推進の課題とし、連携して取り組む。
- ⑤ エコ・ツアーに関する実施状況を実践交流会で交換する。また観光客や市民に対し、その情報を、京エコロジーセンターを拠点として、WebGISを用いて公開する。

\*1エコ・ツーリズム…環境に配慮した旅行を考える、旅行

\*2都市型エコ・ツーリズム…都市部におけるエコ・ツーリズム

\*3インタープリター…地域案内人、ツアーガイド

\*4一日4時間10km…日本旅行業界(JATA)の調べによる